

白食をそのやゆ馬とまて

其後いふあつて一瞬の声

前坐の蛇息をららこよひの
のめをこし

傳いふ前坐うけえ志の山

行ら三井ちい二番の礼所
の巡礼が早足と二番の合
戦い佛の授けのふとを信じ
肝小詔し

抱て悟れ佛おしきし弱體

君があつてはふい小雪のしるを解
けがらん解るるが同じ谷川の水
る水の之陰ある人か

まをわがと同一流りの小雪ふ
るあふ賞美の二句と

小雪とい女の中の女うお
あーぐわわろと

山いまい、林路をまきの二前送り
得る羽の月すま

其の山彦

いゆきん

少み日ら

入 平 上眉山

東京区白倉お
はら里 水子石内

はらるる陰祝



川上眉山手柬

江見水齋宛



本間文庫
文庫 14
C 69

